

～子どもの心に火をつける～

「最高の教師は、生徒の心に火を付ける」

この言葉は、アメリカの教育学者、ウィリアム・アーサー・ウォードの言葉だ。

自分もそんな教師を目標にしながら、これまで教育実践に取り組んできた。

教育現場では、「どうせ、自分なんて何やっても無駄。」と自分自身に対して自信が持てない子どももいる。

そんな子どもと出会った時、教師の私は、その子の気持ちに寄り添い、共感し、一緒に走り出す。

その関係は、教師対子どもではなく、同じ仲間、パートナーといった感覚だ。

その子と私が走り出すと、その子の隣には、一緒に走る仲間が日に日に増えていく。

同じクラスの子どもたち、保護者、地域の人…。

その子どもは、たくさんの人とつながる中で、自然と走る楽しさを覚えていく。

そして、「自分だってできる！明るい未来を切り拓きたい！」と心に火がつく。

「心に火をつけること」、「つなげること」は、教師として大切な役割だ。

そして、そんな子どもたちが今度は、困っている人に寄り添い、一緒に走る人間になってほしいと願う。

ともに走り合う社会、ともに走り合う大人の姿をめざして、これからも教育実践に取り組んでいきたい。

津市立千里ヶ丘小学校
村田 翔